

## 2019 年度事業ならびに活動報告

特定非営利活動法人 安全工学会

### 定款第 3 条（目的）

この法人は、主として産業に関わる安全の諸問題を広く工学的に調査・研究し、各種災害の防止のための知識・技術の向上及び普及を図るため、特に、安全及び安全教育にかかわる議論を活発に行い、安全工学の普及活動に注力する。

### 1. 事業活動

2017 年度、安全工学会 60 周年を期し、若手を中心とした「学会の 10 年のビジョンを考える動き」から、「安全工学会将来構想委員会」が発足し、学会のあるべき姿を論じ、相互研鑽を積む形が改めて構築され、2018 年は様々な場面や会議体で、活発な意見が交わされ、要点の集約が進められた。

2019 年度は、これまでの様々な場面や会議体で得られた 6 つの要点（教育、継続的ビジョンの見直し&設定（システム）、研究会企画、防災と安全工学、化学プロセス安全、学会収支（即ち社会貢献））に対して、具体的な行動（新たな研究部会、研究会、など）を立ち上げることを目論んだ。

また 2018 年度は、「2018 Process Safety Symposium 岡山大会」を開催し、安全工学研究発表会を合わせ、産・学・官を包括した安全工学の普及、情報交換、啓蒙の場を演出した。2019 年度も「Process Safety Symposium 四日市大会」を開催し、定着化することを図った。

2018 年度は、奨励賞を研究発表会当日に選考し、懇親会で表彰状を授与し、好評を得た。

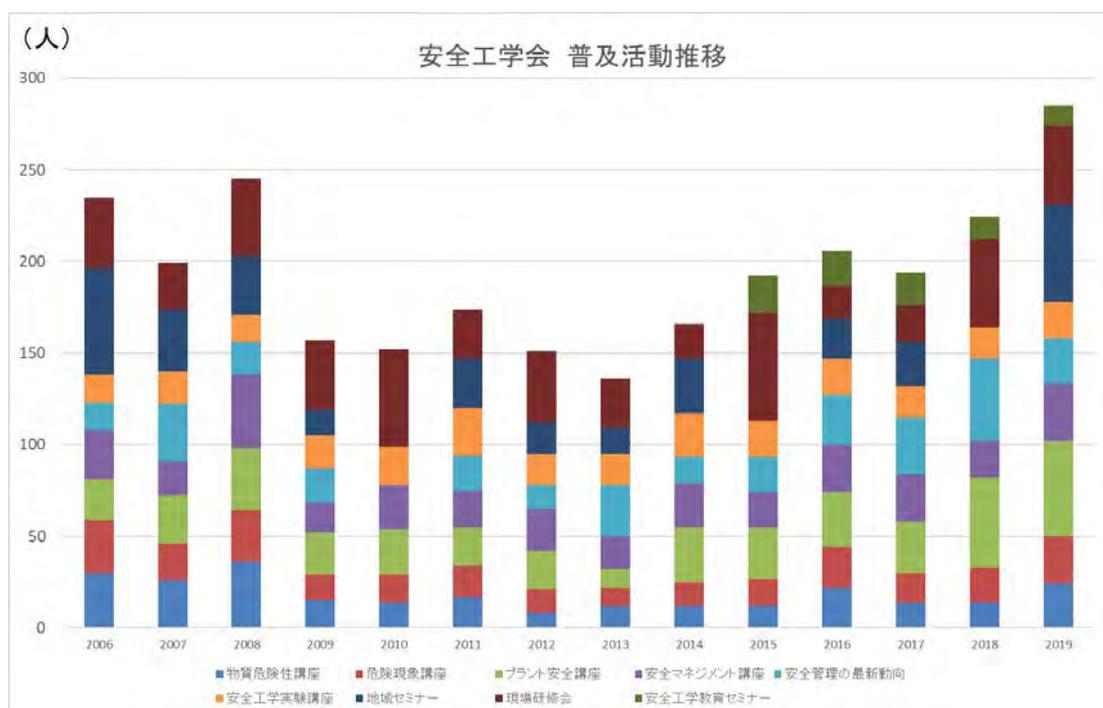
2019 年度は、さらに、奨励賞を見直し、研究発表会の講演を奨励する「優秀・学生講演賞」と、今後の活躍が期待される中堅層を奨励する「学術技術賞」とに分けて、それぞれに相応しい形で顕彰する試みを実施した。

学会の様々な動きを具現化する一つの方法が、研究会の立ち上げと成果の獲得、発表であるが、上記の学会のあるべき姿に係る動きに併せ、

会員の自発的な意思に基づく研究会活動を奨励・支援した（医療安全研究会、将来構想委員会）。さらにもう一つの方法が、これまでの様々な場面や会議体で得られた 6 つの要点に対して企画委員会を核に研究会組織を立ち上げ、自発的な研究活動に導くことを試みた（産業防災研究会、プロセス安全管理システム研究会の構想企画）。

これらの活動の一部は、第 52 回研究発表会（新潟県長岡市）の場で披露され（将来構想委員会／76.WS「安全工学と安全工学会の将来をデザインする」、産業防災研究会／39.PD「防災と安全工学」）、国際的な論文誌への投稿を試みており（医療安全研究会）、成果が具体的な形で発信され始めた。

学会の普及啓発活動については、年間のスケジュールに従い、例年通りの活動を遂行した。開催の情宣、PR 活動については、これまでも関係学協会や工業協会との連携を図っているが、他学会との共同企画の推進など、横串学会の真価を発揮すべく、模索した（2018 年度参加者 224 人→2019 年度 285 人(27%増)）。



一過性でなく継続させる仕組みづくりが、今後の学会の「鍵」として、求められる。

安全工学会誌の論文発表は、会員の研究成果の発表の場として、また学会からの知識・情報の発信の場として、重要な役割を果たしているが、

発表論文数の伸び悩みが課題となっている。一方、「安全工学」を軸に、非常に幅広い分野の論文を受け入れており、この点は世界的にも稀有な存在といえる。新たな英文論文誌（電子ジャーナル）の可能性を探っているが、今年度、既存の会誌に英文投稿論文を1件掲載できた。

## 2. 事業内容 特定非営利活動に係る事業

### 2. 1 安全工学に関する研究・教育事業

#### ① 安全工学に関する研究

学術委員会を中心に、これまでの医療安全研究会に加え、産業防災研究が立ち上がり活動を開始した（第52回研究発表会などで成果を発信）。

#### ② 安全工学 シンポジウム 2019

安全工学を軸とし、34学会が一堂に会した横断的な研究発表会への参加4件（PD:「安全活動と人材育成」、OS:「RBSM (Risk Based Safety Management) の紹介と産業界での実施、展開」、「リスクセンス向上手法の開発と実践」、「リスク共生社会におけるリスクマネジメント活性化手法の開発」）。

開催月日：2019年7月3日（水）～5日（金）

開催場所：日本学術会議

参加者数：724名

主催：日本学術会議

幹事学会：日本化学会

共催：安全工学会ほか33学協会

#### ③ 安全工学研究発表会（第52回）

安全工学会を核とした、安全工学研究成果の発表会を主催する。

開催月日：2019年11月28日（木）～29日（金）

開催場所：アオーレ長岡（新潟県長岡市）

発表件数：83件（新企画WS/1件、PD/2件を含む）

参加者数：215名

#### ④ 研究・教育事業管理

対象委員会・研究会

学術委員会 4/16、6/20、9/18、11/6、2/10、計5回

安全工学研究発表実行委員会 4/3、計1回

医療安全研究会 4/14、6/23、9/8、12/1、2/16、計5回

産業防災研究会 計5回

新規研究会の立ち上げ

## 2. 2 安全工学に関する普及啓発事業

### 2.2.1 一般普及事業

#### (1) 会誌“安全工学”

- ① 発行 印刷物の発行 年 6 回(第 58 巻 / 計 469 ページ)
- ② 電子化推進

J-stage の公開 2016 年 6 月発行分～、逐次更新中

#### (2) 講習会・セミナー

##### ① 第 18 回安全工学地域セミナー（関西地区）

開催月日：2019 年 5 月 17 日（金）

開催場所：新コスモス電機株式会社（兵庫県）

参加者数：10 人

##### ② 第 18 回安全工学実験講座

開催月日：2019 年 6 月 13 日（木）～14 日（金）

開催場所：日本カーリット（株）赤城事業所

参加者数：20 人

##### ③ 第 33 回安全管理の最新動向講習会

開催月日：2019 年 7 月 29 日（月）～30 日（火）

開催場所：機械振興会館 会議室

参加者数：25 人

##### ④ 第 42 回安全工学セミナー

物質危険性講座 2019 年 9 月 5 日（木）～ 6 日（金）

危険現象講座 2019 年 10 月 1 日（火）～ 2 日（水）

プラント安全講座 2019 年 11 月 14 日（木）～15 日（金）

安全マネジメント講座 2020 年 1 月 27 日（月）～28 日（火）

開催場所：化学会館会議室、又は機械振興会館会議室

参加者数：各回 30 人～50 人 計 133 人

##### ⑤ 第 19 回安全工学地域セミナー（横須賀東京湾地区）

開催月日：2019 年 11 月 1 日（金）

開催場所：海上災害防止センター（横須賀）及び訓練所（第二海堡）

参加者数：43 人

##### ⑥ 災害事例研究会

本年度は候補の調整にとどまる。

##### ⑦ 地域・企業支援セミナー

日本全国の地域・企業への講師の派遣

計 3 件

##### ⑧ 安全教育セミナー

安全教育担当向けセミナーの継続開催の推進

開催月日：2020 年 2 月 27 日（木）～28 日（金）

開催場所：三井化学株式会社 茂原分工場

参加者数：13 人 ⇒ COVID-19 を配慮して中止

##### ⑨ 事業所長懇談会の定期的開催

石化協と共催による地域毎の工場長・環境安全部長との懇談会推進

⑩ 普及啓発事業管理

・対象委員会・研究会等

編集委員会

(各月) 計 12 回

普及委員会

6/25、10/25、2/19、計 3 回

・会誌への広告募集管理

(3) 図書販売・会誌の年間購読販売

学会事務局にて図書販売等を実施する

(安全工学便覧 第4版 販売開始)

2.2.2 普及啓発事業：受託事業

行政官庁（経済産業省等）の新規事業に注目し、受託事業管理委員会管理下、対応可否を検討する。今年度は進展なし。

2.3 安全工学に関する調査及び情報収集提供事業

ホームページを充実させ、会員への情報提供を推進する他、意見交換システムの検討を行った。また、周辺学会や、非会員へのPRを推進した。

2.4 安全工学研究の奨励及び研究活動等の表彰

従来、学会賞として、玉置功労賞、北川学術賞、論文賞、奨励賞の4賞を授与し、奨励、表彰を行ってきたが、賞の内容、審査決定時期、形態について、実態に即して見直しを行なった。2019年度は、奨励賞を改定し、研究発表会での発表を評価し奨励表彰する「優秀・学生講演賞」と、中堅研究者を奨励表彰する学術技術賞とを創設し、新たに授与した（第16回総会）。

2.5 安全工学に関連する国内外の団体との連携及び協力

安全工学に関連する学協会に加入し、情報を得ると共に、安全工学の発展のために協業を模索する。国際的には、APASES（Asia Pacific Association of Safety Engineering Societies, アジア太平洋安全工学学協会連合）に参加（継続）、APSS、CCPSとの情報交換を継続、発展させる。

① 諸会費

(社)日本工学会、高圧ガス保安協会、防災学術連携体などに会員として加入（継続）

② 安全工学シンポジウム2019他、周辺学会との交流

